

第五編 近代

第一章 明治政府の成立と狭山市域	3
第一節 江戸幕府の崩壊と狭山	3
戊辰戦争の勃発と東征軍の進攻 社会不安の発生と一揆の続発 振武軍と飯能戦争	
府藩県三治制下の狭山市域	
第二節 廃藩置県後の狭山	8
入間県の誕生と戸籍の編さん 大小区制の導入 副戸長らの選任をめぐる諸問題	
熊谷県から埼玉県へ 『武蔵国郡村誌』にみる村々の状況	
第三節 地租改正	21
地租改正以前の貢租徴収 壬申地券の交付 狭山の地租改正	
地位等級調査の実施 地価の算定 改租結果	
第四節 三新法と町村連合	32
三新法の公布 戸長役場の誕生 村会の開設 町村連合	
第五節 近代教育の発足	41
寺子屋と郷学校 「学制」の発布と県の対応 小学校の設立 就学の状況と進級	
教育内容 教育令と改正教育令 学務委員の設置 明心会導盲院の開校	
第六節 神仏分離と寺院の整理	58
神仏分離令 狭山の神仏分離 社格の制定 寺社領上知と寺院の整理	
第七節 社会の変革と庶民の暮らし	64
身分解放令の布告 徴兵制の実施 警察制度の発足 入間川交番所の新設	
消防組の発足 郵便制度の発足 入間川郵便局の開局 文明開化と庶民の暮らし	
第八節 町村制の施行と町村の状況	75
町村合併計画 六か村の誕生 町村の状況 町村財政の貧困	
第二章 産業と経済の発達	87
第一節 蚕糸業の発展と暢業社・水富公業館	87
暢業社の設立とその背景 工場の建設とその資金 暢業社の経営	
器械製糸・座繰製糸場の設立と生糸生産の増大 暢業会社の設立と生糸改会社	
入間・高麗郡製糸業の危機と蚕糸業組合 器械製糸の発展と市域の蚕糸業	
養蚕業の発展と蚕種生産 公業館合同飼育養蚕所の設立	
蚕種改良株式会社公業館の設立 蚕種改良公業館の収支状況	
第二節 斜子織の発展とその衰退	118
斜子織の発展 斜子織の発展の要因 斜子織の生産 斜子織の販売	
原料糸の流通 斜子織の衰退 絹綿交織物への転換 所沢市場圏への編入	
第三節 清水宗徳と殖産興業	148
その生い立ちと政治活動 暢業社の設立と斜子織の改良	
川越鉄道の敷設と入間馬車鉄道 砂利採掘と鉄工所の経営	
北海道開拓と北海道埼玉殖産協会の設立 北海道開拓の挫折	
第四節 狭山茶の発展と狭山会社	166
横浜開港と製茶輸出の開始 狭山茶の興隆 茶産地としての地位の確立	
狭山会社の設立 資金の調達 狭山会社の経営 製茶直輸出の開始	
狭山会社の経営危機 狭山会社の倒産 繁田武平の直輸出構想と埼玉製茶会社	
不正茶輸入禁止問題とニューヨーク領事報告 茶業組合の結成とその問題点	
不正茶差し押さえ事件 アメリカ飲料市場をめぐる角逐と狭山茶 狭山茶業の衰退	
国内市場への転換と産地間競争の激化 製茶生産の不採算 製茶伝習所の開設	
第三章 金融機関と交通	209
第一節 入間銀行と入間川貯蓄銀行	209
入間銀行の創設 入間銀行の営業の推移 入間川貯蓄銀行の創設	
入間川貯蓄銀行の営業の推移	
第二節 川越鉄道の開業	219
川越鉄道の敷設 敷設工事の開始と入間川築堤問題 入曾駅の新設	
鉄道の開通と入間川町の繁栄 川越鉄道から西武鉄道へ	
第三節 入間馬車鉄道の開業	229
入間馬車鉄道の設立 入間馬車鉄道の起業目論見書 紛争事件の発生	
経営の状況 運行の状況 入間馬車鉄道の終焉	
第四章 地方改良運動と地域社会	251
第一節 町村財政と地方自治	251
市制・町村制と町村財政 基本財産蓄積条例の設置 日露戦争と町村財政	
地方改良運動 地方改良運動への取り組み 部落有財産の統一	
第二節 日清・日露戦争と住民	269
日清戦争の勃発 日露戦争の勃発 戦場に散った郷土兵たち	
入間川町出兵者義済会の設立 寄付募集の開始と救護活動の実施	
軍人恩給と特別賜金 増税と庶民生活 戦時国債と庶民	
第三節 産業組合の活動	283
産業組合の設立 市域の産業組合	
第四節 入間報徳社の設立	288
報徳社とその社会的役割 入間報徳社の設立とその経過 入間報徳社の社業	
第五節 関東大洪水と狭山	294
埼玉県における河川と治水 市域の被害状況 市民生活への影響	
入間川の架橋問題 県と郡の救済策 復旧工事の展開	
第六節 教育の普及	305
小学校令の公布 教育勅語の発令 検定教科書から国定教科書へ	
義務教育の無償化と就学率の向上 高等小学校の設置 校舎の増改築	
教育内容の整備と充実 「校規」にみる児童の生活と成績評価	

	学校儀式と行事の制度化	
第七節	神社の統合整理	319
	統合整理への動き 市域における神社の統合整理	
第五章	大正期の狭山市域	323
第一節	産業と経済の再編	323
一	狭山茶業の機械化とその担い手	323
	日露戦後の狭山茶の興隆と停滞 富農経営の養蚕業への転化 高林謙三による製茶機械の発明 製茶機械の導入と手もみ派の抵抗 機械使用禁止条項の削除 全国製茶品評会と手もみ製茶業者 機械製茶の支配と狭山茶業の再編	
二	石川組製糸所の入間郡蚕糸業支配	343
	石川組製糸所の発展 入間郡養蚕業の躍進と市域の蚕業 特約組合としての堀兼村第三養蚕組合 諸口家の養蚕経営 養蚕農家の抵抗とその挫折	
三	農村織物業の崩壊と再生	361
	日露戦後不況下の市域織物業 戦争の長期化と市域織物業の回復 諸口家の元機経営 賃機の黄金時代 戦後恐慌と市域織物業の再編 力織機化の進展 資金の調達 年給制度の織賃制度への改変 買継商の存在形態とその役割	
第二節	小作争議の発生	395
	埼玉県の農業構造 小作争議の発生 入間郡内の小作争議 地主・小作関係の特質	
第三節	養蚕農家の暮らし	404
	養蚕農家の暮らし 食生活 社会生活	
第四節	大正期の学校教育と社会教育	410
	大正新教育運動と臨時教育会議の設置 教育会の設立と就学の奨励 実業補習学校の設立 公民学校への改称と青年訓練所の併設 青年団・処女会の設立と活動 図書館の設立	
第五節	陸軍特別大演習と狭山	422
	県の対応と大演習の意義 大演習の展開と天皇の行幸 大演習と市域町村の対応	
第六節	関東大震災と狭山市域	433
	埼玉領域と狭山市域の地震被害 体験者が語る震災の様子 流言飛語の発生 流言飛語のその後	
第六編	現代	
第一章	昭和の恐慌と狭山市域	447
第一節	大恐慌と農村	447
一	改元と昭和への期待	447
	大正天皇の崩御と新天皇の即位 御大典のにぎわい	
二	迫られる行政改革	451
	大震災の後遺症 緊縮財政を迫る県 奥富村民の要求 ボーナスの全廃と村費の減額要求 美談と陳情の行方 芝田家の農業 芝田家の養蚕業	
三	失業者救済事業とその背景	459
	昭和六年の狭山地方 失業救済事業のいろいろ 農民からみた昭和経済	
四	経済更生計画とその成果	464
	更生運動の目指すところ 広がる自力更生運動 堀兼村産業組合の更生計画 更生指定村	
五	大衆娯楽の途絶	471
	恐慌と戦争の谷間で 活動小屋と活動弁士 マージャンと義太夫 名勝写真展 竹ヶ淵のボート遊び 狭山の若人とスポーツ 北野スポーツ五兄弟 慰安と休息の場「日待」	
第二節	恐慌下の産業と経済	483
一	農会	483
	有限責任と保証責任 堀兼村農会と自動車部 農会の役割	
二	用水と耕地整理	487
	水田用水 宮沢溜池と赤間川 入間川の耕地整理 難事業の完成	
三	肥料と黄金列車	495
	金肥の節約と自給肥料 水肥配給組合 堤康次郎と黄金列車 畜力利用と堆肥づくり	
第三節	狭山茶の生産と野菜の流通	499
一	狭山茶	499
	茶産地・狭山の茶業 停滞する製茶の機械化 機械化と鋏摘みの進出 宣伝と普及活動	
二	入間川農事試験場	505
	農事試験場の設置 サツマイモの時代	
三	狭山の青果市場	508
	青果市場のはじまり 市場の近代化と統制	
第四節	地域産業と金融の問題	513
一	蚕糸業と養蚕団体	513
	石川王国 大里郡にトップを譲る 養蚕業の実際 養蚕収益の実態 入間組の創業 入間乾繭倉庫組合との合併交渉 入間組の破産 不況とモラトリアム 入間銀行の解散 乾繭倉庫組合のその後	
第五節	運輸機関の変遷とまちづくり	529
一	くるま社会の夜明け	529
	くるまの時代 不況下の運輸事業 交通安全と事故対策	

	丸慶自動車合資会社の創立と合併	
二	国鉄の誘致運動	536
	誘致運動と粕谷義三の死	
三	幻の町村合併	538
	合併の歩み 巨大自治体構想 狭山町か入間町か	
第六節	清流と緑の狭山	543
一	心のふるさと	543
	つつじの稻荷山公園 母なる入間川 河原の遊興「鮎漁」 螢と桜堤	
二	自然との闘い	548
	自然の猛威 水争い 農民日記にみる天災 水害と架橋 用水堰と洪水 笹井ダムの築造	
第二章	軍国化する狭山	559
第一節	青少年教育の軍国化	559
一	「教育勅語」と「臣民の道」	559
	勅語教育 奉安殿と「御真影」 皇民教育と国民学校 軍国化のなかの児童 教科書の移り変わり 少年団の役割	
二	青年教育の変化	570
	公民学校と青年訓練所 青年学校令の公布 青年学校組合の現実	
三	青年団の活動	575
	青年団の変革 青年団とスポーツ 盛行する青年弁論大会	
四	創意工夫の青年たち	580
	『青年時報』にみる郷土開発論 「一人一研究」 靱殻練炭の発明	
第二節	統制の進行	584
一	開拓集落「親睦」	584
	「親シク睦ジク」	
二	埼玉青年挺身隊事件	586
	クーデター計画 入間班の不参加 クーデターと時代	
第三節	供出と配給	590
一	供出はじまる	590
	馬糧大麦の供出 干草の割当 軍用供出と軍需供出	
二	強化される食糧供出	596
	代替供出制 統制下の青果市場 統制と農作業	
三	不足する食糧	600
	代用食 サツマイモの増産 ひもじかった日々	
四	切符制とヤミのはじまり	603
	衣料切符と点数制の導入	
第四節	過熱する献納運動	605
一	報国美談	605
	町のために 愛国婦人会と飛行機の献納 梵鐘の献納	
二	神風講の活躍	610
	神風講の結成 講員と献金の募集活動	
第五節	修武台と天皇	613
一	空都と庶民の対応	613
	陸軍航空士官学校の設置 町民の対応	
二	天皇の行幸	616
	奉迎する町村民 行幸道路 皇族の地方視察	
第六節	戦争体制の進行	623
一	物資の統制から人心の統制へ	623
	進む統制 統制下の狭山市域	
二	戦勝祝賀と戦勝祈願	627
	紀元二千六百年祭 提灯行列と旗行列 戦勝奉告から戦勝祈願へ	
三	翼賛選挙	631
	第二一回衆議院議員総選挙 町村会議員選挙	
四	満蒙開拓青少年義勇軍	633
	満蒙入植計画と青少年義勇軍 一六歳の証言 農具モ武器ト心得ヨ	
第三章	太平洋戦争と銃後の狭山	639
第一節	「一億一心」	639
一	国民精神総動員運動の諸相	639
	国民精神総動員運動 世論の指導	
二	銃後の子供たち	642
	資源としての子供たち 少年少女がみた戦争 増産に励む青少年	
第二節	戦争末期の諸団体	649
	大政翼賛会と新体制 婦人団体の推移 軍人援護団体の働き 国防義会 隣組と部落会 警防組織 在郷軍人会 翼賛壮年団と翼壯挺身隊 少年農兵隊 農業団体の変革 国民義勇隊	
第三節	勤労働員	659
一	国家総動員	659
	国家総動員法から国民勤労働員令へ 風船爆弾と学徒勤労働員 風船爆弾の放球基地とアメリカでの被害 航空基地建設勤労奉仕隊	
二	ヒマ・松根油・桑皮の増産	669
	ヒマの「サア蒔ケ運動」 松根油の採取 桑の皮の学童服	
第四節	兵士と英霊	673
一	出征の原型	673
	召集令状がきた 兵士の所持品	

二	さまざまな死	675
	最初の戦死者 殉死という名の戦死 戦後の戦病死	
三	さまざまな生還	680
	ハンダギー収容所からの帰還 帰ってきた英霊	
第五節	空襲と狭山の戦災	686
一	狭山の防空体制	686
	防空演習とバケツリレー 入間川監視哨	
二	狭山の戦災	690
	狭山戦災体験記 一人の戦災死	
三	入間国民学校と謙受堂書店の被災	696
	御真影と校長先生 謙受堂書店の被災	
四	東京空襲の罹災者たち	699
	狭山にみる東京大空襲	
第六節	太平洋戦争の終結と平和への歩み	702
一	狭山の八月十五日	702
	修武台の八月十五日 敗戦と狭山の人々	
二	平和宣言	710
	終戦と敗戦 一人一人の平和宣言 次代の平和	
第四章	アメリカ軍の進駐と民主化	715
第一節	戦後の変容と民主社会	715
一	基地の町と化した市域	715
	敗戦と航空士官学校 アメリカ軍の進駐 ジョンソン基地 基地の町に生きる B29爆撃機の墜落 戦後占領としての基地拡張	
二	地方政治の民主化	724
	事務報告書にみる村政 新憲法学習と祝賀式 部落会と隣組の解体 自治体警察入間川町署の設置と廃止	
三	民主教育の展開	729
	墨塗り教科書の登場 GHQによる教育改革 六・三制の実施と町村財政 寄付金による中学校建設 PTAの発足 県立川越高等学校入間川分校の開校	
四	生活の困窮と混乱	739
	慢性化した生活物資の不足 戦災者・引揚者に対する援護 食糧危機 インフレの猛威と新円への切り替え	
第二節	混乱から復興への序曲	744
一	農村と農地改革	744
	食糧供出の重圧 農地改革の実施 民有林開拓と帰農政策 農業協同組合の誕生 4Hクラブの発足 製茶業の復活 新害虫の発生	
二	商業・観光の再編成	754
	進駐軍兵士目あての商売 入間川商工祭の開催 入間川七夕祭りの復活 稲荷山公園のつつじ祭りの復活	
三	災害復旧と建設事業	758
	カスリン台風と復旧工事 キティ台風と笹井ダム 不老川改修工事の陳情 不老川改修工事の開始 ジョンソン基地の拡張に伴う不老川移設工事 新富士見橋の建設	
四	全駐労の結成と労働運動	764
	基地で働く人々 従業員組合の誕生 全進同盟から全駐労へ 全駐労初のストライキ	
五	対日講和条約の発効と住民意識の変化	767
	対日講和条約の発効 成年式における成年者の決意 出征兵士に対する慰労と感謝行事 日米協調を図った町村 航空機騒音とアメリカ軍トラックの通行反対運動 青年友の会の世論調査	
第三節	狭山市誕生の胎動	777
一	町村合併促進法と合併機運	777
	町村合併促進法の施行 合併促進啓蒙運動の展開 合併研究会の誕生 入間川行政支会町村合併協議会の発足 純農村型合併を模索した堀兼村 豊岡町との合併に揺れた水富村 町村合併の決定と町村民への周知	
二	新市名決定と市制施行の準備	782
	「狭山」か「入間」で揺れる新市の名称 町村長の投票により「狭山市」と決定 市制施行へ向けての動き 狭山市設置申請書にみる合併構想 合併へ向けての協定事項 新市の機構と執行体制 狭山市設置の県告示と住民への周知 町村合併実態調査にみる一町五か村の状況	
第七編	狭山市の時代	
第一章	田園都市狭山の誕生と歩み	793
第一節	新市の行政と自治	793
一	石川市長の登場と市制施行の式典	793
	狭山市の誕生 初代市長を選ぶ選挙 昭和二十九年度予算の議決 市紋章の公募と「ミス狭山市」コンテスト 市制施行を祝う式典 式典に参加した市民の感想	
二	市議会と政党の活動	801
	選挙区条例の制定 最初の市議会議員選挙 市議会勢力の推移 強力な自民党支部 社会党狭山支部の組織 共産党狭山市委員会 名誉市民条例の制定	
三	新市建設計画の概要	807
	基本計画の樹立 教育施設の整備 土木施設の整備 各種施設の統合計画 諸団体の統合と競艇開催権の獲得	

四	市庁舎の建設	811
	市庁舎の位置決定 市庁舎の建設 市庁舎の完成	
第二節	産業と経済の発展	813
一	農業振興とその施策	813
	農業地帯の振興 茶業振興とその施策 養蚕業の振興 有線農事放送の堀兼地区への設置 灌がい対策の推進 動力耕運機の導入と競技大会の開催 4Hクラブの活躍 実を結ぶ農業振興策 狭山市農業協同組合の誕生	
二	商工業の振興と観光施策	825
	遅れをとった商工業振興策 入間川商店街へのネオン灯設置 狭山商工会の設立 狭山商工会による商工業の振興策 消費者アンケート調査の実施 観光の目玉となった入間川七夕祭り 稲荷山公園のつつじ祭りと関東チンドン屋大会 智光山公園計画の萌芽	
三	工場誘致の推進	834
	工場誘致条例の制定 工場誘致第一号 進む工場の誘致	
第三節	教育と文化の創造	837
一	中学校の統合と防音校舎の建設	837
	教育委員会の発足と教育文化計画 中学校の統合問題 統合中学校の建設 木造防音校舎の建設 鉄筋防音校舎の建設	
二	高等学校の誘致	844
	高等学校誘致期成同盟会の結成 県立狭山工業高等学校の開校 普通科高校の誘致 県立狭山高等学校の開校	
三	学校教育をめぐる話題	849
	県教育委員会表彰を受けた入間川中学校PTA 大蔵大臣表彰を受けた入間小学校子供貯蓄組合 消防庁表彰を受けた入間中学校少年消防クラブ 保健体育優良校となった堀兼小学校 学力テストを拒否した入間川中学校三年生 全国トップレベルの入間川小学校道徳授業	
四	青年・婦人団体などの活躍	855
	相次ぐ社会教育関係団体の発足 狭山市連合青年団の結団 連合青年団による市議選アンケート調査 青年文化祭の定期開催 地域社会の変化と青年団活動 バス増発運動と図書館充実運動 青年団活動の衰退 狭山市連合婦人会の結成と各地区婦人会の活動 婦人会会員の意識変化 婦人学級に見出した活路	
五	文化とスポーツの振興	867
	『入間川町誌』の発刊 狭山市文化協会の設立 県指定無形民俗資料となった梅宮神社の甘酒祭り 文化財保護条例の制定 市民俳壇と市民歌壇の広報紙への連載 狭山市体育協会の設立と活動 石井千恵子選手の活躍 王選手らを招いての野球教室 平和運動に取り組んだ元陸軍中将遠藤三郎 狭山ロータリークラブの誕生	
第四節	環境の整備と市民生活	877
一	ジョンソン基地と航空機騒音	877
	追られる航空機騒音への対応 小学校長が市長にあてた陳情書 航空自衛隊臨時航空訓練部の設置から入間基地へ 頻発したアメリカ軍機と自衛隊機の墜落事故 基地周辺民家の集団移転 県下初の防音病院の完成 全国初の農耕阻害補償要求	
二	軍事基地との共存と問題点	885
	アメリカ軍住宅の建設 基地交付金獲得運動の展開 廃油による河川と井戸水の汚染 基地労働者の解雇とその対策 ロングプリー事件の発生 ジョンソン基地の縮小と市民生活への影響 アメリカから返還されたアンリー・ファルマン号 地対空ミサイルの入間基地配備と原水爆禁止狭山市民会議の結成 盛り上がる反対闘争 報告合戦で幕を閉じた反対運動 ナイキ部隊の入間基地到着 ジョンソン基地の返還	
三	衛生と環境の段階的整備	902
	集団赤痢の発生 高まった保健衛生への関心 上水道施設の建設 大幅な計画変更 上水道施設の第一期拡張工事 清掃工場の建設	
四	選挙管理委員会職員の殉職	909
	事故の発生 合同市葬の執行 慰霊碑の建立	
五	女子高校生誘拐殺人事件	912
	狭山事件の発生 犯人を捕り逃がした警察 別件逮捕された青年 青少年を守る市民大会の開催と善枝さん地蔵の建立 狭山事件のまとめと推移	
第五節	都市基盤の整備と工業団地の造成	921
一	道路改良と橋梁の架け替え	921
	都市計画街路の決定 本格化する道路整備 本富士見橋の架け替え 国道一二九号線から一級国道一六号線へ 交通事故の増加と信号機の設置	
二	都市機能の整備と工業団地の造成	929
	狭山電報電話局の開局と電話の自動化 都市計画税の新設と用途地域の指定 川越・狭山工業団地の造成 川越・狭山工業団地の完成 新狭山駅の開業と都市公園の完成 分譲住宅地の開発 消防署の完成	
第二章	狭山市の高度成長期	939
第一節	一〇万人都市を目指す市政	939
一	町田市政と一〇万人都市	939
	石川市長の勇退 町田市政のはじまり 町田市長の抱負 名誉市民に石川前市長	

	狭山台団地の造成 入間川駅東口広場の新設と輸送力の増強	
	一〇万人都市の仲間入り	
二	市議会議員選挙と県議会議員選挙	948
	最初の全市一区の市議会議員選挙 少数激戦が定着した市議会議員選挙	
	異動がつづいた県議会議員	
三	節目ごとの記念式典開催と市政の総括	953
	市制施行一五周年記念式典の開催 大きな意味を持つ「はたち」の式典	
	審査が紛糾した市民憲章 二五周年記念式典から三〇周年記念式典へ	
第二節	豊かな緑と健康都市づくり	960
一	緑を育てるまちづくりと公園の整備	960
	総合振興計画基本構想の策定 まちに緑・心に緑をの緑化条例	
	大規模公園の建設計画進む公園の整備 第一回緑化祭の開催と県植樹祭	
	勤労福祉センターと体育センターの開館 智光山荘の完成 完成近づく緑の公園	
	市民総合体育館の完成	
二	健康都市づくりを目指して	969
	市立衛生学院の開校 国体旗の市内通過 市民プールの建設	
	老人福祉センター「宝荘」のオープン さまざまな福祉施策の展開	
	市民の健康を守る栄養大学 急患センターと保健センターの開設	
第三節	活気ある産業と文化都市	980
一	商工業と農業の近代化	980
	狭山工業団地の完成 県下第一の工業都市へ 減少する農家と農地	
	米・麦の生産から生鮮野菜の供給地へ 近代的都市農業の確立に向けて	
	スーパーマーケットの市内への進出 勤労青少年ホームの開設	
	商業の近代化と商工会館の建設 相次ぐ金融機関の進出	
二	文化都市への胎動	995
	進む公民館の整備 図書館の開館 「史跡文化財めぐり」の広報紙への連載	
	今宿遺跡の発掘調査と保存 七曲井の発掘調査と保存 市史編さん事業の開始	
	子供の殿堂・児童館の開館 狭山市文化行政研究会の設置とその提言	
	狭山市市民会館の開館 「狭山産業市民まつり」の開催 大学の誘致	
	文化人の市内転入	
第四節	調和のとれた快適環境都市へ向けて	1013
一	生活環境の整備	1013
	「交通安全都市宣言」と交通安全対策協議会の発足	
	市民交通傷害保険と交通指導員制度の発足 救急業務の開始	
	消防力の増強と分署の設置 上水道施設の第二期拡張工事と県水の受水	
	し尿処理場の設置とごみ焼却場の増設 公害研究室の設置	
	ごみ減量化への取り組み 集団回収制度の誕生とリサイクルセンターの建設	
	下水道の整備 公共下水道の一部使用開始	
二	基地跡地返還運動とその取り組み	1030
	基地対策協議会の設置とジョンソン基地跡地返還運動	
	基地跡地の三分割有償化反対運動 基地跡地利用計画の策定	
	進む個人住宅の防音工事	
第五節	高度成長期の市民	1034
	気を吐く狭山の若者たち 俳句の興隆と市民による本の出版	
	大韓民国忠武市との姉妹都市締結 市民グループによる郷土かるたづくり	
	明治の先覚者・清水宗徳の顕彰 市民の手による狭山戦災の記録	
	社会福祉協議会の設立と「ふれあい広場」の開催 福祉を支えるボランティア	
	狭山市赤十字奉仕団の結成とその活動 郷土芸能の興隆を担った人々	
	狭山市コミュニティ推進協議会の設立とその活動	
	河川浄化運動と不老川をきれいにする会の活動	
	部落解放同盟狭山支部の誕生とその活動 高齢者が参加運営する事業団の発足	
第三章	平成の狭山市	1057
第一節	心のかよいあう施策	1057
	平成の時代へ向かっての助走 大野市政の基本の明確化	
	平成初の市長選挙と市議会議員選挙 市の面積の確定 平和都市宣言	
	さやま大茶会の開催 平成の幕開けと市民生活 平成元年時点の市内の主要施設	
	市立図書館の改築 市立博物館の開館	
第二節	第二次総合振興計画の概要	1074
	平成の「まちづくり」の基調 総合振興計画の概要 調和のとれたまちをめざして	
	快適で安全なまちをめざして 健康で生きがいのあるまちをめざして	
	文化の香り高い人間性豊かなまちをめざして 活力あふれる豊かなまちをめざして	
	心のかようふるさとをめざして	

資料提供者名簿

執筆分担一覧

狭山市史編さん関係者名簿

写真・図表目次

第五編 近代

第一章 明治政府の成立と狭山市域

5-1	岩倉八幡（古谷亮一家蔵）	6
5-2	大小区制下における市域村々の構成	10
5-3	市域旧村の正副戸長名簿（明治十年現在）	11
5-4	熊谷県下各区村の主要年中行事概略	14

5- 5	藩県の移り変わり	15
5- 6	明治九年の市域旧村の戸数と人口	16
5- 7	市域旧村の税地(明治八年)	17
5- 8	市域旧村の貢租(明治八年)	18
5- 9	市域旧村の物産(明治九年)	19
5-10	「地租改正中日記」(部分)(松井正雄家蔵)	24
5-11	地租改正の「模範概則」(部分)(松井正雄家蔵)	26
5-12	埼玉県地位等級及び収穫表	27
5-13	青柳村地価及び地租額	28
5-14	米麦価相場書	29
5-15	地券(奥富喜康家蔵)	31
5-16	郡役所開設地及び開庁年月日	33
5-17	旧村別戸長及び役場所在地	34
5-18	「明治十年日記」(部分)(斎藤丈太家蔵)	36
5-19	連合戸長役場の印影(市立博物館提供)	38
5-20	狭山市域の町村連合	39
5-21	狭山市域の連合戸長役場所在地と戸長名	39
5-22	大統歌(部分)(市立博物館提供)	42
5-23	七番仮小学校句読師拜命(平山紀三郎家蔵)	43
5-24	明治初期の小学校	45
5-25	淇澳学校卒業証書(市立博物館提供)	45
5-26	竹友田口君碑	46
5-27	西三芳野学校七等訓導任命書(高橋善男家蔵)	47
5-28	広瀬学校卒業証書(市立博物館提供)	49
5-29	小学校別の就学率(明治七年)	50
5-30	明治初期の小学校就学率	51
5-31	奥富学校の不就学理由	51
5-32	市域各小学校の就学者数	52
5-33	熊谷県の下等小学読本教科書と問答教科書(明治八年)	53
5-34	教育令期・改正教育令期の郡別就学率	55
5-35	旧宝蔵寺山門と売渡し証(所沢市・全徳寺蔵)	59
5-36	竈注連祈禱に対する蕪山県役所の回答(篠井良勝家蔵)	60
5-37	帰農願(部分)(篠井良勝家蔵)	61
5-38	旧村別・社格別神社表	62
5-39	旧村別寺院数比較表	63
5-40	徴兵届編冊	66
5-41	市域管轄警察署と警察区画	68
5-42	消防組の纏(狭山市消防本部蔵)	68
5-43	入間県の郵便取扱所と取扱人	70
5-44	郵便切手売下人人名簿	70
5-45	入間川郵便局の消印(松井正雄家蔵)	71
5-46	人力車(長谷川文皓家蔵)	73
5-47	不定時法と現在の時刻との対比	74
5-48	当初計画による市域町村編成表	76
5-49	町村合併により誕生した村	78
5-50	(a) 奥富村歳入予算の推移	83
5-50	(b) 奥富村歳出予算の推移	84
第二章	産業と経済の発達	
5-51	明治初期の養蚕(長谷川文皓家蔵)	88
5-52	埼玉県の蚕糸生産(明治八年)	88
5-53	明治初期の糸繰り(長谷川文皓家蔵)	89
5-54	狭山市域の旧村別繭・生糸生産高(明治八年)	89
5-55	暢業社発起人の土地所有状況	90
5-56	白根多助が詠んだ和歌(内藤敏男家蔵)	92
5-57	暢業社の収支状況(明治十年十二月～十一年六月)	93
5-58	器械製糸場・座繰製糸場の設立	95
5-59	第一回内国勸業博覧会生糸部門受賞者数(明治十年)	96
5-60	入間・高麗郡の生糸生産高の推移	96
5-61	貿易商会・同伸会社の生糸売上額	98
5-62	アメリカの生糸輸入状況	100
5-63	ニューヨーク市場の生糸価格の推移	101
5-64	横浜生糸相場の動向	101
5-65	入間郡の器械製糸工場(明治四十二年)	103
5-66	入間郡養蚕業の発展	104
5-67	入間郡養蚕業の県内での地位	104
5-68	春蚕に対する夏蚕・秋蚕の比率(明治三十八年)	105
5-69	明治初期の繭掻き(長谷川文皓家蔵)	105
5-70	埼玉県の郡別蚕種生産高(明治十二年)	106
5-71	公業館の商標(市立博物館提供)	107
5-72	公業館合同飼育養蚕所株主の地租額	108
5-73	公業館の繭審査証明書(岸野七郎家蔵)	108
5-74	公業館より出された感謝状(岸野七郎家蔵)	110
5-75	埼玉県の養蚕伝習所(大正三年調)	110
5-76	地租と所有株式数との相関関係	112

5-77	蚕種改良公業館の営業収支予算	113
5-78	蚕種改良公業館貸借対照表（第一期）	115
5-79	蚕種改良公業館貸借対照表（第二期）	115
5-80	蚕種改良公業館貸借対照表（第三期）	116
5-81	入間郡の蚕種製造高	117
5-82	郡別織物生産額の推移	119
5-83	入間・高麗郡の織物生産額	119
5-84	入間地方の斜子織生産高	120
5-85	水富村の斜子織生産の推移	120
5-86	米国コロンビア博覧会における斜子織賞状（明治二十六年）（岸野七郎家蔵）	121
5-87	入間高麗郡重要物産品評会における広瀬組賞状（岸野七郎家蔵）	121
5-88	博覧会・共進会における広瀬組の成績	122
5-89	高機（長谷川文皓家蔵）	123
5-90	広瀬組の商標（市立博物館提供）	124
5-91	斜子織の羽織（市立博物館提供）	124
5-92	（a）柏原村の斜子織生産者の土地所有状況（明治三十年）	125
5-92	（b）水富村の斜子織生産者の土地所有状況（明治二十七年）	125
5-92	（c）入間川町の斜子織生産者の土地所有状況（明治二十五年）	125
5-93	斎藤家の斜子織生産高	127
5-94	府県・郡・町村別の水富村寄留者（明治三十一～三十七年）	128
5-95	水富村入寄留者（女）の年齢別・出身地別構成	129
5-96	柏原村斎藤家の斜子織販売先	131
5-97	水富村小谷野家の斜子織販売先	131
5-98	柏原村増田家の斜子織販売先（明治三十年）	132
5-99	斜子織の原料糸（市立博物館提供）	133
5-100	柏原村増田商店の生糸仕入れ先（明治三十年）	134
5-101	柏原村増田商店の原糸販売代金と支払い残高（明治三十年）	135
5-102	入間郡の織物生産額の推移	136
5-103	織物同業組合員の推移	136
5-104	斜子織一疋当たりの価格	137
5-105	狭山市域町村の織物生産額構成と入間郡内の地位（明治四十四年）	140
5-106	入間郡の町村別織物生産額（明治四十四年）	141
5-107	狭山市域の織物工場Ⅰ（明治四十二年）	142
5-108	安藤工場の遠景	143
5-109	越生町の生絹市場（岡野正平家蔵）	147
5-110	清水宗徳（山口清家蔵）	149
5-111	第一回衆議院議員選挙埼玉第二区当選者	150
5-112	地租徴収期限改正案	151
5-113	入間川を渡る入間馬車鉄道（野口照明家蔵）	155
5-114	奈井江町要図（北海道・奈井江町提供）	158
5-115	入植直後の開拓小屋（北海道・奈井江町提供）	160
5-116	入植者の住居（北海道・奈井江町提供）	161
5-117	開拓地の伐採跡と畑（北海道・奈井江町提供）	162
5-118	北海道奈井江開墾事業総勘定書（明治二十五年九月～二十六年四月）	163
5-119	清水宗徳の入植地の現況	164
5-120	奈井江神社	165
5-121	開港直後の生糸・茶の輸出額	167
5-122	日本茶の輸出先	168
5-123	ニューヨーク市場における日本緑茶・中国緑茶・中国インド紅茶の割合	168
5-124	ニューヨーク市場の茶相場（明治十五年六月）	169
5-125	製茶の輸出価格	169
5-126	（a）村別製茶業者数・焙炉数（文政三年）	170
5-126	（b）製茶業者の焙炉所有状況（文政三年）	170
5-127	二本木村の製茶生産者	171
5-128	狭山市域の製茶生産高（明治八年）	172
5-129	明治初期の製茶1（茶摘み）（長谷川文皓家蔵）	173
5-130	明治初期の製茶2（生葉を蒸す）（長谷川文皓家蔵）	173
5-131	明治初期の製茶3（焙炉での手もみ）（長谷川文皓家蔵）	174
5-132	明治初期の製茶4（選別）（長谷川文皓家蔵）	174
5-133	明治初期の製茶5（茶がめへの収納）（長谷川文皓家蔵）	175
5-134	明治初期の製茶6（出荷）（長谷川文皓家蔵）	175
5-135	茶種の蒔付け反別（明治十七年）	176
5-136	府県別製茶生産額（明治七年）	177
5-137	東京市場の産地別製茶価格（一貫当たり）	178
5-138	第一回内国勸業博覧会入賞者数（明治十年）	179
5-139	繁田武平（岡野正平家蔵）	180
5-140	狭山会社設立発起人の土地所有状況（明治八年）	181
5-141	狭山会社印影	182
5-142	狭山会社の佐藤百太郎商店への出荷高（明治九年）	184
5-143	狭山会社貸借対照表（明治十年三月）	185
5-144	佐藤組（日本商会）の負債額	186
5-145	入間・高麗郡内の製茶組合と組合員数（明治十七年）	193
5-146	堀兼茶業組合印影（奥富康裕家蔵）	194
5-147	A家の製茶販売先（明治四十五年五月十一日～八月十九日）	196

5-148	ニューヨーク市場における日本茶価の動向（一斤当たり）	199
5-149	ニューヨーク市場における茶在荷高の推移	200
5-150	アメリカの製茶とコーヒーの輸入高	201
5-151	入間郡の製茶生産の動向	202
5-152	入間郡の茶園面積の推移	203
5-153	入間郡の市町村別製茶生産高と生産額	203
5-154	狭山市域の製茶生産高と生産額	203
5-155	茶産地の地位とその推移	205
5-156	宮寺村製茶生産者の反当たり収益（明治十五年）	206
5-157	三ヶ島村茶園の反当たりの収支（明治二十年）	206
5-158	郡立製茶伝習所開設日程表（明治四十五年度）	207
第三章	金融機関と交通	
5-159	明治十年代に設立された入間郡内の私立銀行	210
5-160	入間銀行	210
5-161	入間銀行貸借対照表	213
5-162	創立時の入間川貯蓄銀行の町村別株主数	215
5-163	入間川貯蓄銀行の持株数別株主数の推移	216
5-164	入間川貯蓄銀行貸借対照表	217
5-165	貯金高別・職業別貯金状況（大正六年下期）	217
5-166	黒須銀行の職業別貸付契約者状況（大正六年下期）	218
5-167	大正時代の川越鉄道を走っていた蒸気機関車	220
5-168	川越鉄道発起人の株数	221
5-169	入間川（現狭山市）駅（野口照明家蔵）	222
5-170	開業時の川越鉄道時刻表（明治二十八年）	225
5-171	県内各駅の運輸収入の推移	227
5-172	川越鉄道の運輸収入の推移	228
5-173	郡別の馬車・荷車台数（明治三十年）	230
5-174	入間馬車鉄道発起人に下付された新命令書（部分）（山崎滋夫家蔵）	233
5-175	起業目論見書による入間馬車鉄道と飯能鉄道の建設費比較表	234
5-176	起業目論見書による入間馬車鉄道と飯能鉄道の収支比較表	235
5-177	入間馬車鉄道の地域別株式申込数	236
5-178	入間馬車鉄道発起人の株式引受数比較表	237
5-179	入間馬車鉄道建設費比較表	238
5-180	入間川の街中を行く馬車鉄道（野口照明家蔵）	241
5-181	入間馬車鉄道収支決算比較表	241
5-182	入間川を渡る馬車鉄道（山崎滋夫家蔵）	245
5-183	入間馬車鉄道時刻表（明治三十七年）	245
第四章	地方改良運動と地域社会	
5-184	埼玉県における県・町村の財政支出	255
5-185	埼玉県における諸税負担状況	257
5-186	狭山市域町村の年度別歳入決算	259
5-187	狭山市域町村の年度別歳出決算	261
5-188	入間川尋常高等小学校の経費内訳（明治四十一年）	262
5-189	入間郡内の町村税賦課額と滞納額	263
5-190	狭山市域町村の基本財産蓄積状況	265
5-191	部落有財産と町村有財産の比較表（明治四十一年）	267
5-192	日露戦争出征兵士（諸口忠次家蔵）	270
5-193	入院先の負傷兵（諸口忠次家蔵）	273
5-194	柏原村信用購買組合発起人・役員の耕地所有状況	287
5-195	入間報徳社設立理由書（部分）（久保田定作家蔵）	290
5-196	入間報徳社の資金運用	291
5-197	入間報徳社の活動状況	293
5-198	入間報徳社が受けた表彰状（本木欣一家蔵）	293
5-199	大洪水前の笹井堰（山崎滋夫家蔵）	295
5-200	入間郡の氾濫区域図	296
5-201	富士見橋の渡り初め	300
5-202	市域における応急工事一覧	303
5-203	堀兼尋常小学校卒業証書（市立博物館提供）	306
5-204	教育勅語（市立博物館提供）	307
5-205	国定教科書（尋常小学校読本一）（市立博物館提供）	309
5-206	市域尋常小学校の就学者数（明治三十三年）	310
5-207	奥富村経常費に占める教育費の割合	312
5-208	入間川男子尋常高等小学校（野口照明家蔵）	313
5-209	入間川女子尋常高等小学校（野口照明家蔵）	313
5-210	入間川男子尋常高等小学校の高等科卒業生（明治四十三年）（金山修康家蔵）	317
5-211	明治後期以後に統合整理された神社	321
第五章	大正期の狭山市域	
5-212	入間郡の製茶戸数・茶園反別・生産高の推移	324
5-213	入間郡の町村別製茶生産額（大正四年）	325
5-214	製茶伝習生（志村義一家蔵）	326
5-215	大正期の製茶輸出高	327
5-216	百斤当たりの茶価の推移と賃金	328
5-217	諸口家の製茶と繭売上額	329
5-218	高林謙三（山崎滋夫家蔵）	330

5-219	高林式茶葉粗揉機	331
5-220	製茶機械を導入した志村製茶工場（志村義一家蔵）	332
5-221	製茶機械使用解禁陳情書の連名者	334
5-222	第二回全国製茶品評会出品者の入賞率	336
5-223	第五回全国製茶品評会への府県別出品者・出品点数・入賞者数	337
5-224	入間郡内町村の入賞者	337
5-225	第六回全国製茶品評会成績表	338
5-226	（a）埼玉県における製茶機械導入状況	340
5-226	（b）組合別の製茶機械導入状況（大正十四年）	340
5-227	メーカー別製茶機械台数（大正十四年）	341
5-228	水富村山崎家の製茶生産（明治四十二年）	342
5-229	入間郡の製糸生産額	343
5-230	入間郡内の製糸戸数の推移	344
5-231	石川組の製糸工場	345
5-232	石川組川越工場（斎藤丈太家蔵）	346
5-233	横浜市場での格別生糸価格（百斤当たり）	346
5-234	入間郡の収繭高・収繭額	347
5-235	入間郡養蚕業の地位Ⅰ（大正八年）	347
5-236	入間郡養蚕業の地位Ⅱ（大正八年）	348
5-237	夏秋蚕率と水田化率の相関図（大正十五年）	348
5-238	狭山市域町村の収繭高・収繭額	349
5-239	狭山市域の養蚕組合（大正十一年）	350
5-240	養蚕農家の地租納入状況（大正十五年）	350
5-241	堀兼村第三養蚕組合表彰状（諸口忠次家蔵）	351
5-242	堀兼村第三養蚕組合の生繭共同販売高	352
5-243	（a）堀兼村第三養蚕組合員の預金残高Ⅰ	353
5-243	（b）堀兼村第三養蚕組合員の預金残高Ⅱ	353
5-244	大日本蚕糸会より授与された賞状（諸口忠次家蔵）	354
5-245	諸口家の繭販売高の推移	355
5-246	埼玉県・入間郡・堀兼村第三養蚕組合の一戸当たり生産高と生産額	355
5-247	諸口家の労働力	356
5-248	秋蚕繭掻きの労働力（大正十一年）	356
5-249	堀兼村第三養蚕組合所属の有力養蚕農家の経営（大正十五年）	357
5-250	諸口家の小作人と小作料	357
5-251	川越町における主要商品価格の動向	358
5-252	入間組製糸場設立計画（大正十一年）	360
5-253	所沢織物の生産高の推移	363
5-254	柏原村有力機業家の田畑地積の増減	364
5-255	入間郡内町村の総生産物価格に占める織物生産額	364
5-256	所沢・足利・尾西の織物生産高の推移	366
5-257	狭山市域の織物工場Ⅱ（大正八年）	367
5-258	大野善太郎商店への販売高	368
5-259	諸口家の織物販売高と販売先	368
5-260	諸口家の資本蓄積	368
5-261	諸口家の賃織業者の生産規模	369
5-262	賃機の生産反数と織賃（大正六年）	370
5-263	諸口家の有力賃織業者の月別生産反数	371
5-264	諸口家賃機の織賃の推移	372
5-265	諸口家の主要賃機の製織状況（大正六年）	373
5-266	所沢織物の単価の推移	375
5-267	戦後恐慌による織物産地の打撃度	376
5-268	所沢織物の町村別生産高の推移	377
5-269	所沢織物の有力機業家への集中傾向	378
5-270	織物生産者の市域町村別分布	378
5-271	狭山市域の主要織物生産者（大正十三年）	379
5-272	『所沢織物誌』（布田光男家旧蔵）	380
5-273	力織機工場の増加	381
5-274	所沢織物同業組合員使用の力織機	381
5-275	出機屋の動向	382
5-276	賃織工場の形成	383
5-277	市域町村機業家の残存率	383
5-278	柏原村の土地所有状況	384
5-279	武蔵織物信用販売購買組合設立発起人の経歴と国税納額	386
5-280	所沢織物信用販売購買組合の貸付額	387
5-281	入間川町の内田織物工場	388
5-282	所沢織物同業組合「月報」（入間市・所沢織物商工協同組合蔵）	389
5-283	所沢織物の仕向け地	391
5-284	所沢買継商の取扱金額（大正十二年）	392
5-285	有力買継商の取扱高の推移	393
5-286	市域町村の組合員異動	394
5-287	入間郡内で発生した小作争議	400
5-288	諸口家の農業収入	405
5-289	諸口家の購入物価表（大正三年）	406
5-290	大正博覧会（諸口忠次家蔵）	408

5-291	諸口家の支出内訳（大正三年）	409
5-292	「研究教授」などの言葉がみえる『学校沿革誌』（部分）（入間川小学校蔵）	411
5-293	大正時代の市域各尋常小学校の出席率	413
5-294	入間川公民学校の学科課程と年間授業時間数	416
5-295	堀兼村青年団の主要事業（大正十二年度）	420
5-296	堀兼村処女会の主要事業（大正十年度）	421
5-297	入間川町を訪れた大正天皇	426
5-298	稲荷山における天皇の統監	426
5-299	上奥富で演習をする野砲兵第一四連隊	430
5-300	御野立所記念碑（高橋彦一家蔵）	433
5-301	関東大震災の猛煙	434
5-302	狭山市域における関東大震災の被害	435

第六編 現代

第一章 昭和の恐慌と狭山市域

6- 1	御大典を記念してつくられた奉安殿（奥富義雄家蔵）	449
6- 2	入間川町の御大典奉祝行事（大野七三家蔵）	450
6- 3	御大典を祝う入間川町の商家（大野一郎家蔵）	450
6- 4	整理緊縮を図った堀兼村実行予算書（昭和八年度）	453
6- 5	入間川町役場（斎藤丈太家蔵）	454
6- 6	水富村芝田家の農業収支調	456
6- 7	養蚕農家（今坂隆二家蔵）	457
6- 8	芝田家の養蚕収入の推移	458
6- 9	失業対策事業で改修された下奥富の道路の現況	462
6-10	堀兼村経済更生委員の囑託書（諸口忠次家蔵）	466
6-11	堀兼村役場（田口達家蔵）	470
6-12	入間川町のカフェー（大野七三家蔵）	472
6-13	入満座（三浦四郎家蔵）	473
6-14	名勝写真展をもとにつくられた「入間川名勝ゑはがき」	477
6-15	入間川町の野球チーム「東雲」（宮寺金作家蔵）	479
6-16	堀兼村農会自動車部のトラック（諸口忠次家蔵）	485
6-17	丸慶自動車の貨物運賃表	486
6-18	丸慶自動車の貸切・小荷物料金	486
6-19	宮沢溜池（入間第二用水土地改良区提供）	489
6-20	田植え（橋本清水家蔵）	491
6-21	入間川町の耕地整理事業（杉田文平家蔵）	493
6-22	水富村芝田家の施肥予定表（昭和十一年一月～六月）	496
6-23	昭和初期の茶摘み（橋本清水家蔵）	500
6-24	焙炉を使っての手もみ製茶（橋本清水家蔵）	501
6-25	茶摘み鉢（市立博物館提供）	503
6-26	県立農事試験場入間川園芸部の全景（斎藤丈太家蔵）	506
6-27	青物市場之碑	509
6-28	石川組製糸所入間川蚕種部（斎藤丈太家蔵）	514
6-29	蚕の種紙（市立博物館提供）	516
6-30	繭の計量升（宮岡栄家蔵）	517
6-31	入間組乾繭倉庫の上棟式	521
6-32	入間銀行の窓口（野口定平家蔵）	526
6-33	丸慶バス時刻表（昭和二年四月）	530
6-34	丸慶バスと同型車（諸口忠次家蔵）	530
6-35	丸慶バスの回数乗車券（諸口忠次家蔵）	531
6-36	川越・豊岡間乗合自動車料金改正表（昭和五年七月）	533
6-37	丸慶バスの月別利用者数と運賃収入（昭和七年）	533
6-38	昭和十七年の町村合併案	540
6-39	新町名を「入間町」とする理由書	541
6-40	つつじと桜の名所の稲荷山公園（高橋彦一家蔵）	544
6-41	遠足の児童でにぎわう稲荷山公園（高橋彦一家蔵）	544
6-42	入間川での水遊び（高橋彦一家蔵）	545
6-43	入間川の鮎漁（高橋彦一家蔵）	547
6-44	狭山市域の自然災害	549
6-45	入間川の護岸工事（山崎滋夫家蔵）	554
6-46	決壊前の笹井堰（山川貞雄家蔵）	555
6-47	決壊した笹井堰（入間第二用水土地改良区提供）	555
6-48	完成した笹井堰（今坂隆二家蔵）	557

第二章 軍国化する狭山

6-49	水富尋常高等小学校の奉安殿（小林重雄家蔵）	560
6-50	堀兼尋常高等小学校の学校行事（堀兼小学校提供）	562
6-51	「国威宣揚」と刻まれた国旗掲揚塔	563
6-52	校庭で遊ぶ児童（奥富義雄家蔵）	564
6-53	学校園での実習（奥富義雄家蔵）	565
6-54	国民学校時代の教科書（市立博物館提供）	567
6-55	剣道の訓練をする水富少年団（金山修康家蔵）	569
6-56	裁縫の授業を受ける堀兼公民学校女生徒（奥富義雄家蔵）	571
6-57	青年学校の軍事教練（小川つる家蔵）	573
6-58	堀兼村剣道大会の記念写真（田口達家蔵）	577
6-59	一人一研究の賞状（栗原要重家蔵）	582

6-60	粃殻練炭と豆炭（栗原要重家蔵）	583
6-61	軍用大麦供出に関する件の通牒	591
6-62	愛馬供出後の馬購入についてのお知らせ	591
6-63	第五次軍用大麦供出割当表（昭和十二年）	592
6-64	柏原村の軍用梅干供出精算表（昭和十六年）	595
6-65	節米供出愛国運動の趣意書（部分）	597
6-66	入間川町農業生産統制規程による作業実施計画（昭和十九年）	599
6-67	白米食廃止についての冊子	602
6-68	衣料切符（奥富喜康家蔵）	603
6-69	衣料点数表	604
6-70	主要食品の価格凍結の実態	604
6-71	軍用飛行機献納に関する件の通知	608
6-72	慰問品として送られた家族の写真（杉田文平家蔵）	609
6-73	供出される宗源寺の鐘と住職（宗源寺蔵）	610
6-74	「修武台」の碑（入間市・大塚道広家蔵）	614
6-75	航空士官学校での実習授業（所沢市・吉永朴家蔵）	615
6-76	空の神兵像	616
6-77	昭和十七年三月二十七日の行幸日程	618
6-78	照宮を迎えた寺井家の人々（寺井清次家蔵）	621
6-79	農村視察にみえられた北白川宮妃（栗原和雄家蔵）	622
6-80	堀兼村生活刷新申合事項（部分）	625
6-81	紀元二六〇〇年を祝う入間川町の人々（金子朝子家蔵）	627
6-82	南京占領を祝う水富村の旗行列（山川貞雄家蔵）	628
6-83	中国大陸へ向けて発送される戦勝記念用の花火（諸井久雄家蔵）	629
6-84	満蒙開拓青少年義勇軍募集の通知（部分）（斎藤丈太家蔵）	634
6-85	内原訓練所（斎藤丈太家蔵）	635
6-86	満蒙での開拓（斎藤丈太家蔵）	637
6-87	軍事教練中の義勇軍（斎藤丈太家蔵）	638
第三章	太平洋戦争と銃後の狭山	
6-88	国民精神総動員に関する通牒（部分）	640
6-89	柏原村の出生数と乳児死亡率	643
6-90	国民学校生徒の体力手帳（部分）（久保田福造家蔵）	643
6-91	国民学校児童が描いた絵（今坂隆二家蔵）	644
6-92	国民学校児童の習字（今坂隆二家蔵）	645
6-93	水富国民学校夏季修練期生活日記（昭和十八年）	647
6-94	イモ掘り作業	648
6-95	大政翼賛会の書類綴	649
6-96	大日本国防婦人会の襷（斎藤芳尾家蔵）	650
6-97	銃後奉公会の運営に関する通牒（部分）	651
6-98	常会の誓詞	653
6-99	柏原村警防団の法被（狭山市消防本部蔵）	653
6-100	柏原村警防団に占める在郷軍人の割合（昭和十一六年）	655
6-101	少年農兵隊（野口定平家蔵）	656
6-102	勤労報国隊名簿	660
6-103	風船爆弾の記述がある『ダイニク六〇年史』（部分）	662
6-104	所沢飛行場整備工事の概略図	666
6-105	価柏原村の航空基地緊急工事勤労奉仕隊編成表（昭和十九年）	667
6-106	柏原村の航空基地緊急工事精算書（昭和十九年）	668
6-107	ヒマ栽培報国運動実施要綱（部分）	670
6-108	市域各町村へのヒマ種子配布量と収穫目標（昭和十九年度）	670
6-109	入間川（現狭山市）駅での出征兵士の見送り（小川つる家蔵）	674
6-110	出征兵士が身につけていたお守り（橋本光司家蔵）	675
6-111	無言の帰還（小川つる家蔵）	676
6-112	殉国慰霊碑の除幕式（服部宗作家蔵）	679
6-113	アナタハン島でつくった諸道具（田中秀吉家蔵）	683
6-114	日本兵の投降を報じたマリアナ諸島の新聞（田中秀吉家蔵）	685
6-115	入間川町防空計画（部分）	686
6-116	防空演習でのバケツリレー（宗源寺蔵）	687
6-117	防空監視中の入間川監視哨員（甲田実家蔵）	688
6-118	監視哨員の記録（宮岡栄一家旧蔵）	689
6-119	笹井戦災の罹災地概略図	692
6-120	笹井戦災を記録した水富村長の日誌（岡野正平家蔵）	694
6-121	笹井戦災の罹災証明書（水岡久家蔵）	695
6-122	殉職した小久保入間国民学校校長（入間小学校蔵）	696
6-123	柏原村の戦災者援護物資配給状況調（昭和二十一年五月）	700
6-124	戦時災害保護法による申請書（部分）	701
6-125	上原重太郎大尉（川越市・川合文子家蔵）	703
6-126	陸軍航空士官学校（所沢市・吉永朴家蔵）	705
6-127	上原大尉自刃の跡	708
6-128	『戦争体験記・子供たちに語り継ぐために』	711
第四章	アメリカ軍の進駐と民主化	
6-129	アメリカ軍の進駐を記した陸軍航空士官学校資料（部分）（所沢市・吉永朴家蔵）	717
6-130	ジョンソン基地	718
6-131	アメリカ兵が持参した「日米会話手引書」（部分）（松本英樹家蔵）	720

6-132	ジョンソン基地所属航空機の事故発生と被害状況	721
6-133	ジョンソン基地拡張に対する入間村の陳情書（部分）	723
6-134	新憲法の公布を祝う入間村の人々（小峰正治家蔵）	725
6-135	入間川町警察署と署員	727
6-136	墨塗り教科書（市立博物館提供）	729
6-137	使用停止となった国史教科書（市立博物館提供）	731
6-138	完成した入間中学校	734
6-139	奥富中学校建設寄付金地区別割当表	735
6-140	県立川越高等学校入間川分校	738
6-141	柏原村の地区別防空頭巾供出量（昭和二十年）	740
6-142	隠退蔵物資の配給状況調（昭和二十二年）	741
6-143	埼玉軍政部から贈られた供出完遂の褒賞	746
6-144	民有林開拓反対の請願書（部分）	749
6-145	搾乳実習中の4Hクラブ員（諸口直昭家旧蔵）	751
6-146	茶業協会に関する綴	752
6-147	アメリカシロヒトリの駆除についてのチラシ	753
6-148	入間川町の七夕祭り	756
6-149	稲荷山公園のつつじ祭りと仮装行列（小川つる家蔵）	757
6-150	カスリン台風による市域町村の被害状況	759
6-151	「笹井堰復旧工事計画書」（入間第二用水土地改良区提供）	760
6-152	不老川改修工事の年度別事業概要	762
6-153	新富士見橋	763
6-154	第五回柏原村成年式の代表者謝辞（部分）	769
6-155	ジョンソン基地公共情報官の留任を求める陳情書（部分）	772
6-156	入間小学校児童の航空機騒音に対する作文（部分）	773
6-157	アメリカ軍砂利トラック通行中止を求める町村民有志のチラシ	774
6-158	青年世論実態調査のアンケート結果	775
6-159	入間川町外五ヶ村合併促進協議会の役員	779
6-160	狭山市設置申請書	785
6-161	町村合併実態調査書にみる人口	788
6-162	町村合併実態調査書にみる産業別人口・世帯数	789
6-163	町村合併実態調査書にみる土地利用状況	789
6-164	町村合併実態調査書にみる小中学校児童生徒数・教員数	790

第七編 狭山市の時代

第一章 田園都市狭山の誕生と歩み

7- 1	昭和二十九年度歳入歳出予算案	797
7- 2	公募により決まった市の紋章（上段）と応募作品の一部（下段）	798
7- 3	市制施行記念式典の市長式辞（部分）	799
7- 4	市制施行時の市三役と市議会議員	802
7- 5	最初の市議会議員選挙の選挙結果	803
7- 6	市議会での審議	804
7- 7	市役所移転についてのお知らせ	811
7- 8	完成した市庁舎	812
7- 9	狭山市新市建設計画基本計画書	814
7-10	繭の選別作業	816
7-11	堀兼の有線農事放送	817
7-12	堀兼有線農事放送の放送時間割	818
7-13	大干ばつで水がなくなった入間川	820
7-14	柏原で行われた雨乞い神事	820
7-15	4Hクラブ員による耕運機実習（諸口直昭家旧蔵）	821
7-16	エンジンの栽培研究に取り組む4Hクラブ員（諸口直昭家旧蔵）	823
7-17	入間川商店街のネオン灯	826
7-18	入間川の商店街	827
7-19	狭山給食協同組合の配送車	829
7-20	市制施行時の入間川七夕祭り	831
7-21	つつじ祭りとチンドン屋大会	832
7-22	開園した智光山遊園地	833
7-23	工場誘致第一号となった日本クロス工業（現ダイニック）	836
7-24	入間川中学校	838
7-25	完成した東中学校	840
7-26	木造防音工事を施した入間川小学校	842
7-27	入間川小学校鉄筋防音校舎建設費の内訳	843
7-28	鉄筋防音校舎となった入間川小学校	843
7-29	県立狭山工業高等学校の開校記念式	846
7-30	県立狭山工業高等学校	846
7-31	県立狭山高等学校の開校祝賀式	847
7-32	県立狭山高等学校	848
7-33	入間中学校少年消防クラブの表彰旗伝達式	850
7-34	市内各地区青年団の概況（昭和二十九年）	856
7-35	バス増発を訴える柏原青年団の嘆願書（部分）	861
7-36	狭山市連合青年団の団員数の変化	862
7-37	成人女子人口に対する婦人会員の割合	864
7-38	婦人学級の年度別開設状況	866
7-39	狭山市文化協会の設立総会	868

7-40	梅宮神社の甘酒祭り	870
7-41	尾張家鷹場勝示石	871
7-42	クマガイ草	871
7-43	バラモミ	871
7-44	さはりの壺	871
7-45	第一回市民体育祭	873
7-46	陸上短距離で活躍した石井千恵子選手	874
7-47	少年野球の指導に来市した王選手	875
7-48	航空機騒音に対する入間小学校の陳情書と児童の作文（部分）	879
7-49	自衛隊機の事故発生と被害状況	882
7-50	入間川の市街地に墜落した自衛隊機	882
7-51	建設中のアメリカ軍住宅	886
7-52	基地交付金の推移	888
7-53	全駐労ジョンソン支部の対市交渉	890
7-54	ロングブリー事件に対する抗議デモ（増田保治家蔵）	892
7-55	返還された「アンリー・ファルマン号」に乗る徳川元中將	895
7-56	入間基地ミサイル持ち込み反対県民集会（増田保治家蔵）	897
7-57	ナイキ・ミサイル持ち込み反対を掲げたメーデーのデモ行進（増田保治家蔵）	898
7-58	配備されたナイキ・ミサイル	900
7-59	東京オリンピックを前に市内上空に描かれた五輪マーク	902
7-60	消毒作業	903
7-61	ジョンソン基地水源地の一部使用認可に関する協定書の調印式	906
7-62	上水道の給水状況（第一期拡張工事以前）	907
7-63	建設中の第一浄水場	907
7-64	第一浄水場の通水式	907
7-65	完成間近の清掃工場	909
7-66	事故現場脇に建立された慰霊碑	912
7-67	佐野屋周辺の現況	913
7-68	青少年を守る市民大会	916
7-69	決定した狭山都市計画街路（昭和三十五年）	922
7-70	市民の協力による道路補修	924
7-71	入間川商店街の舗装工事	924
7-72	完成した本富士見橋	926
7-73	舗装工事中の国道一六号線	927
7-74	交通事故の発生状況（昭和三十五年～三十九年）	927
7-75	速度規制が導入された入間川の市街地	928
7-76	鶴ノ木交差点に設置された交通信号機	929
7-77	開局した狭山電報電話局（現N T T狭山）	930
7-78	川越・狭山工業団地の造成に伴う地主説明会	932
7-79	操業を開始した本田技研工業	933
7-80	新狭山駅の開業記念式	935
7-81	造成中の新狭山公園	935
7-82	造成中の東急台団地	936
7-83	完成した消防署	938
第二章	狭山市の高度成長期	
7-84	建設中の狭山台団地	943
7-85	市内各地区別人口・世帯数の推移	945
7-86	整地がはじまった入間川（現狭山市） 駅東口	945
7-87	市内各駅の乗降客数の推移	947
7-88	人口と世帯数の推移	948
7-89	選挙の開票	949
7-90	市議会議員選挙の記録	950
7-91	県議会議員選挙の記録	952
7-92	市制施行二〇周年記念式典	955
7-93	狭山市歌	956
7-94	市の花・木・鳥	957
7-95	狭山市文化及び産業功労者の表彰	959
7-96	緑化条例に基づく保存樹木第一号	962
7-97	市内の主な公園（昭和五十年）	963
7-98	智光山公園	964
7-99	稲荷山公園	965
7-100	緑化祭	966
7-101	市民総合体育館を使用してのママさんバレーの試合	969
7-102	衛生学院の戴帽式	970
7-103	市内をリレーされる国体旗	971
7-104	子供たちでにぎわう市営プール	973
7-105	「市民水泳まつり」に招かれた兵藤（旧姓前畑） 秀子	973
7-106	完成した老人福祉センター「宝荘」	974
7-107	「宝荘」に開設されたミニ・ゴルフ場	975
7-108	心身障害者スポーツ大会	976
7-109	狭山市ゲートボール大会	977
7-110	狭山市栄養大学の調理実習	978
7-111	完成した休日診療急患センター	979
7-112	保健センターで行われた「健康まつり」	979

7-113	工場建設が進む狭山工業団地	981
7-114	産業分類別事業所数と製造品出荷額等の割合（昭和五十八年度）	982
7-115	工業の推移	983
7-116	宅地造成のため埋め立てられた農地	985
7-117	農家戸数の推移	985
7-118	農地の利用状況の推移	986
7-119	生鮮野菜等の収穫量の推移（昭和四十年～五十八年）	987
7-120	茶生産高の推移（昭和四十年～六十年）	988
7-121	拡幅された農道	989
7-122	完成した農村環境改善センター	990
7-123	商店数・従業者数・年間商品販売額の推移	991
7-124	市内に進出した大手スーパーマーケット	991
7-125	狭山市商工会館	994
7-126	完成した中央公民館	996
7-127	金田一京助博士を招いての開館記念講演	997
7-130	入間川町立図書館	998
7-129	開館直後の市立図書館閲覧室	998
7-130	図書館の蔵書数と貸出冊数の推移	999
7-131	市独自の自動車文庫「さみどり号」	1000
7-132	発掘された今宿遺跡	1002
7-133	復元された住居跡	1003
7-134	発掘作業中の七曲井	1004
7-135	完成した児童館（現中央児童館）	1006
7-136	完成した狭山市市民会館	1008
7-137	市民会館の利用状況の推移	1009
7-138	一五万人の市民でにぎわった「狭山産業市民まつり」	1010
7-139	東京家政大学狭山校舎の竣工記念式	1011
7-140	童句碑の除幕式に臨んだ土家由岐雄夫妻	1012
7-141	国道一六号線に面して立てられた「交通安全宣言都市」の標識	1014
7-142	子供らに語りかける交通指導員	1016
7-143	入間川小学校の交通安全教室	1016
7-144	消防署に配備された救急車	1017
7-145	救急車出動状況の推移	1018
7-146	配備されたハシゴ付消防車	1019
7-147	最初の防災訓練	1019
7-148	開設された富士見分署	1020
7-149	消防車の配備状況（平成元年）	1020
7-150	建設中の稲荷山配水場	1021
7-151	上水道の配水量と給水量の推移	1022
7-152	環境保全推進のつどい	1024
7-153	ごみ処理状況の推移	1025
7-154	資源リサイクルに取り組む市民	1026
7-155	完成したりサイクルセンター	1027
7-156	進む公共下水道工事	1028
7-157	公共下水道の通水式	1028
7-158	公共下水道普及状況の推移	1029
7-159	ハイパーク返還促進市民大会	1031
7-160	基地跡地の利用計画	1033
7-161	パラリンピック優勝の報告	1035
7-162	狭山・忠武姉妹都市結縁宣言書	1038
7-163	衛生学院に入学した忠武市の留学生	1038
7-164	市制施行三五周年記念式典で祝辞を述べる忠武市副市長	1039
7-165	狭山市郷土かるた（一部）	1040
7-166	奈井江町の開拓記念碑	1041
7-167	「狭山戦災の頃をしのぶ夕べ」	1042
7-168	ふれあい広場	1043
7-169	完成した社会福祉会館	1044
7-170	点字グループ「すみれ」の点訳奉仕作業	1045
7-171	笹井豊年足踊り	1048
7-172	市内全域空き缶拾いでの分別作業	1049
7-173	汚染が進んだ不老川	1050
7-174	「不老川をきれいにする会」による浄化運動	1051
7-175	完成した高齢者事業センター	1054
7-176	シルバー人材センターの概要	1055
第三章 平成の狭山市		
7-177	大野市長と幹部職員との初顔合わせ	1058
7-178	外国人登録者数の推移（昭和五十五年～平成三年）	1062
7-179	さやま大茶会	1063
7-180	（a）平成元年時の市民生活の実態	1064
7-180	（b）平成元年時の市の一日	1065
7-181	平成元年時点の市内の主要施設	1066
7-182	全面改築された市立図書館（現中央図書館）	1072
7-183	市立博物館	1076
7-184	第二次狭山市総合振興計画の図式	1075